

社会的合意形成の技法 第5回 議事録

2012/5/23

1. 参加者

鈴木(進行)、越前(記録)、桂木、島田、進藤、田川、中村

2. 流れ

文系科目の方向性の意見を集める際、短期的なものと長期的なものに分けることにした。最終的に 問題点、修正点、具体的な方法として分類、さらにその中でも先生・学生という立場に分類した。最後に越前が背景（問題点の存在理由）について言及し、今回はそれも視点の一つとして加えることになった。

3. 具体的内容

問題点、疑問点及びそれに対する提案・方法

- ・ 文系を通じて何を学べるのか、何が身につくのが分からない。
→シラバスでの具体的情報・説明不足が原因。
： 学生の声を正確に反映させるシステム導入、冊子の作成・充実化、説明会の開催等
- ・ 文系授業の選択の際に、情報を集めるために色々な授業に出席する（文系めぐり）
→情報提供システムの不備が理由として挙げられた。
： 先生が従うマニュアル作り、先生の説得、OCWの充実化・共通化、映像配信
- ・ 文系科目のマンネリ化（数年たっても内容があまり変わらない）
→重みをおいていないのか、現状維持状態の理由がわからないのが現状。
： データを収集して長期的な変更プランを立てる、それらの授業を取った人々のその後追跡
- ・ 学生のやる気、意識不足。単位の取得の加減。
→より時間をかけずに楽に単位を取ることを望んでいる学生が多い。
： 出席の強化、単位取得のためではなく楽しみに来るような授業にする、有名な先生を雇う、

4. 次回

問題点はなぜその問題点が生まれているのか、という背景も考えた上で提案する。そして問題点とシステムを具体化する。なぜ変える必要があるのか、現状では何がいけないのだろうか、という視点でも考えていきたい。

以上